



最初に、PCにジェネレータを取り付けジェネレータの電源を入れます。

バイオスキャンをするときは、**Spooky Pulse**と指サック電極を取り付けます。

Spooky Pulseの取り付けは、必ずPC本体のUSBポートに取り付けます。

ジェネレータその他のリグをPCに取り付けた後に、

Spooky2のプログラムを起動します。

ジェネレータを検出して**Frequency generator found. Search for more?**と尋ねてくるので、**No**を選ぶと、ソフトの起動が早い。

Yesを選ぶとポートスキャンをして起動するので時間がかかる。



Advanced Menu (アドバンスド・メニュー)を設定する。

Refresh Rateを15.66Hzすると、**Gate**周波数が15.66の1/2の7.83Hzとなります。
7.83Hzはシューマン共振周波数(Schumann Resonance)と呼ばれ、地球磁気の周波数と共振します。7.83HzはHealingやrelaxingで活用できます。

Enable Soundにチェックをいれると、プログラムの始まりや終わりを音で知らせてくれる。

Double HRV(Heart Rate Variability) tolerance (心拍数変化許容)にチェックを入れるとバイオスキャンの際にデータエラーを減らせます。

Enable social media siteのチェックをはずすと、ソーシャルメディアバーをクリアできます。

ブラックリスト周波数に1840, 1910を加える。

スプーキー2の基本的な使い方

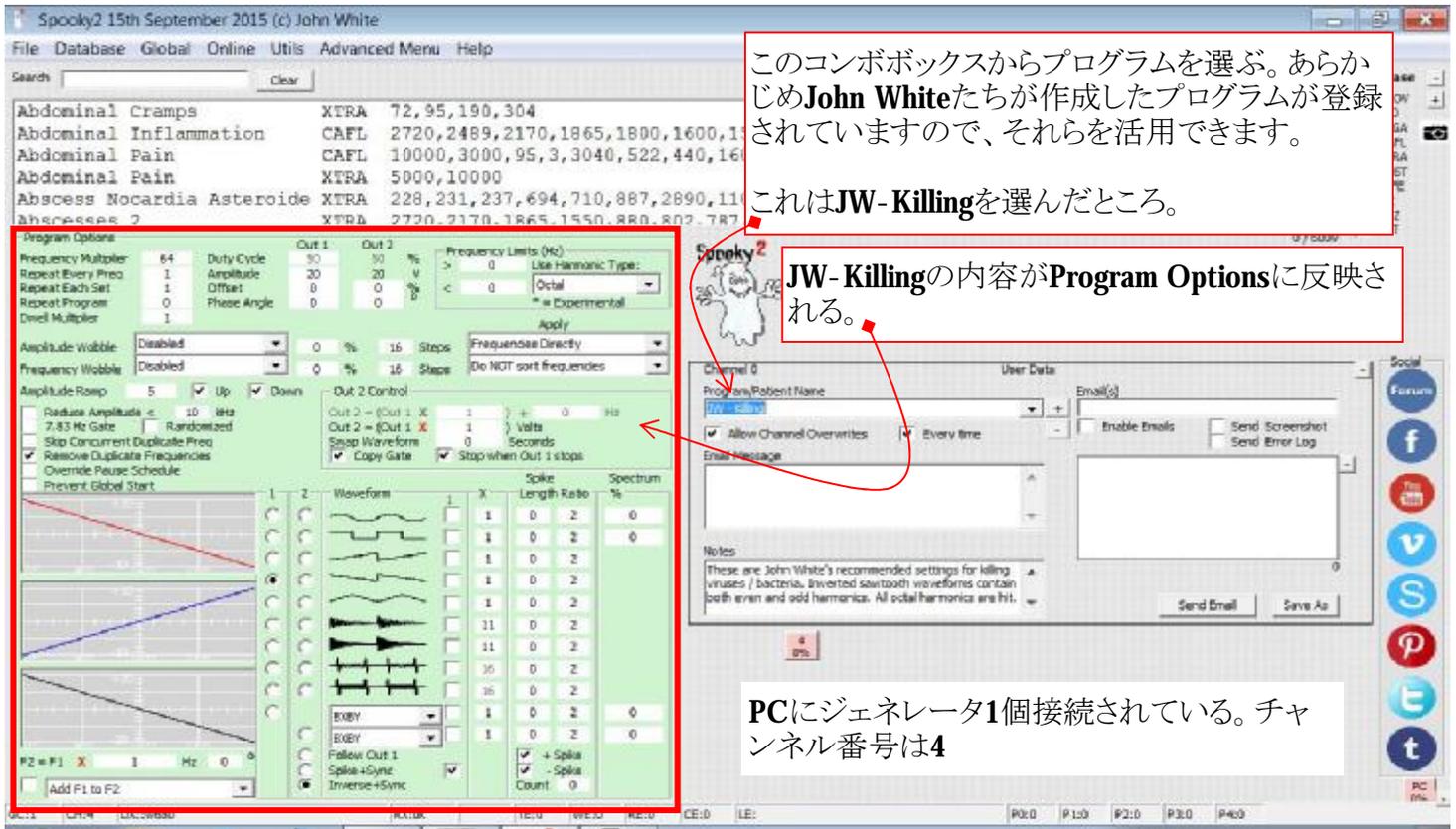
1	<p>使いたい周波数セットをデータベースから選ぶ。</p> <p>複数選ぶことができますが、的を絞って2-3セットくらいにした方が良いと思います。理由は、周波数セットは複数の異なる周波数を持っているので、適用周波数の数が多くなると、ランニング時間が長くなります。(1つの周波数の所要時間は3分がデフォルト値です。)ランニング時間が長くなると細菌や寄生虫の特定の周波数の適用間隔が長くなり、細菌や寄生虫が周波数耐性をつけやすくなります。それでプログラムのランニング時間(全ての周波数を一巡する時間)は、2h以内に収めると良いと思います。</p>
2	<p>周波数をどのように発信するかをプログラムする。</p> <p>デフォルトでJohn Whiteたちが作ったプログラムがありますので、それを利用することができます。また周波数の特性を学んで自分でプログラムをすることもできます。スプーキー2マニュアルには多くの有益な解説が書かれてありますので読んで活用するとよいと思います。</p>

下の赤枠は周波数データベースです。
 この中から望みの周波数を探し使います。
 バイオスキャンの結果もこの中にリストアップできます。
 本体は、**Spooky2**フォルタ内の**Frequencies.csv**ファイルと**coustom.csv**ファイルです。

The screenshot shows the Spooky2 software interface. At the top, there is a menu bar with 'File', 'Database', 'Global', 'Online', 'Utils', 'Advanced Menu', and 'Help'. Below the menu is a search bar. The main area displays a table of frequencies with columns for condition, program type, and frequency values. A red box highlights the table content. Below the table are several control panels for program options, amplitude, and frequency limits. On the right side, there is a 'Spooky2' logo and a 'Channel 0' section with 'Program/Patient Name' and 'Email(s)' fields. A red box highlights the 'Email(s)' field, and a red arrow points from the text box to it. At the bottom, there is a status bar with various indicators.

周波数をダブルクリックで選択すると、
 選択した周波数セットが下の赤枠の
 ボックスにリストアップされます。

PCにジェネレータ1個接続されている。チャ
 ンネル番号は4

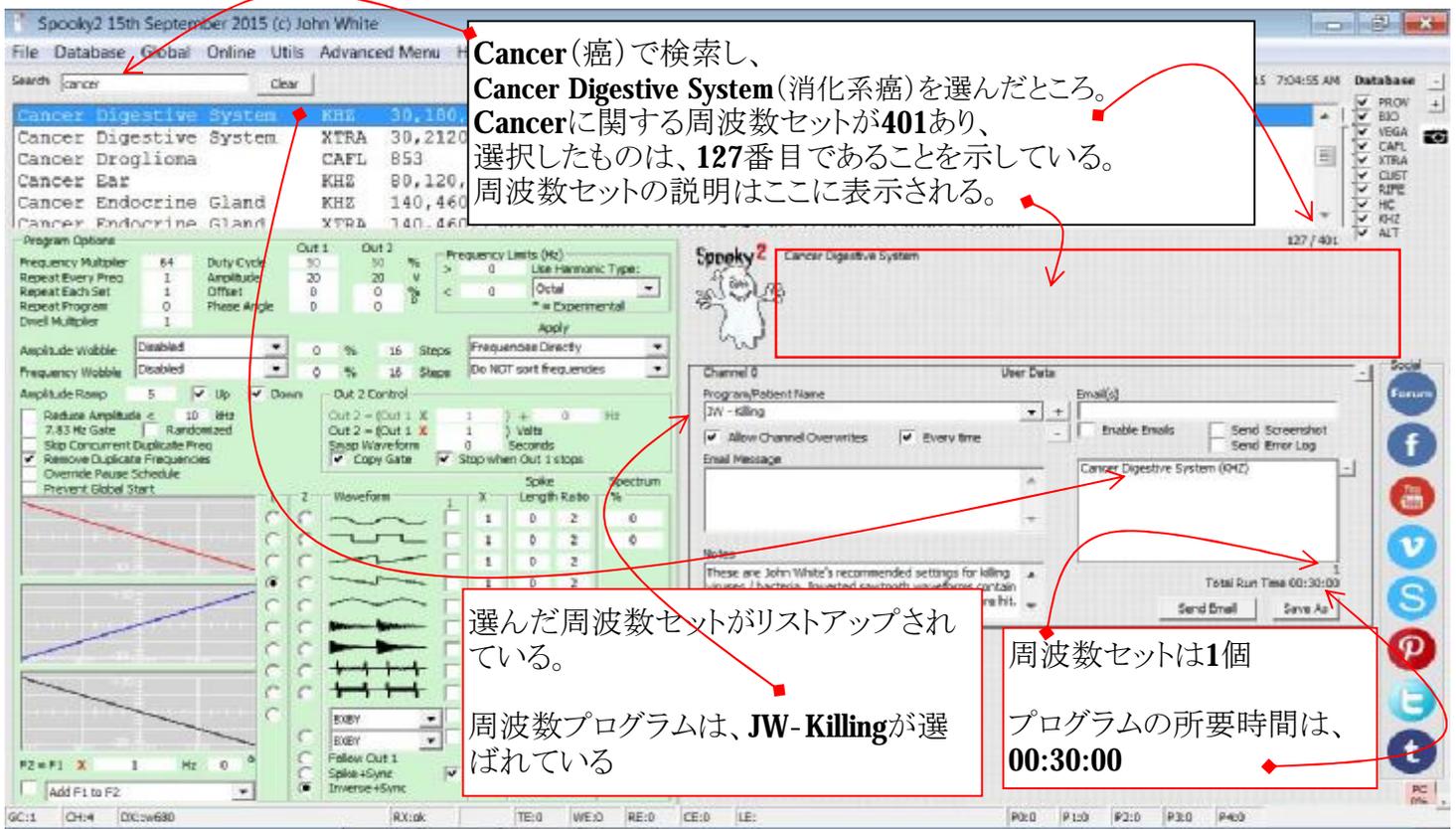


このコンボボックスからプログラムを選ぶ。あらかじめJohn Whiteたちが作成したプログラムが登録されていますので、それらを活用できます。

これはJW-Killingを選んだところ。

JW-Killingの内容がProgram Optionsに反映される。

PCにジェネレータ1個接続されている。チャンネル番号は4

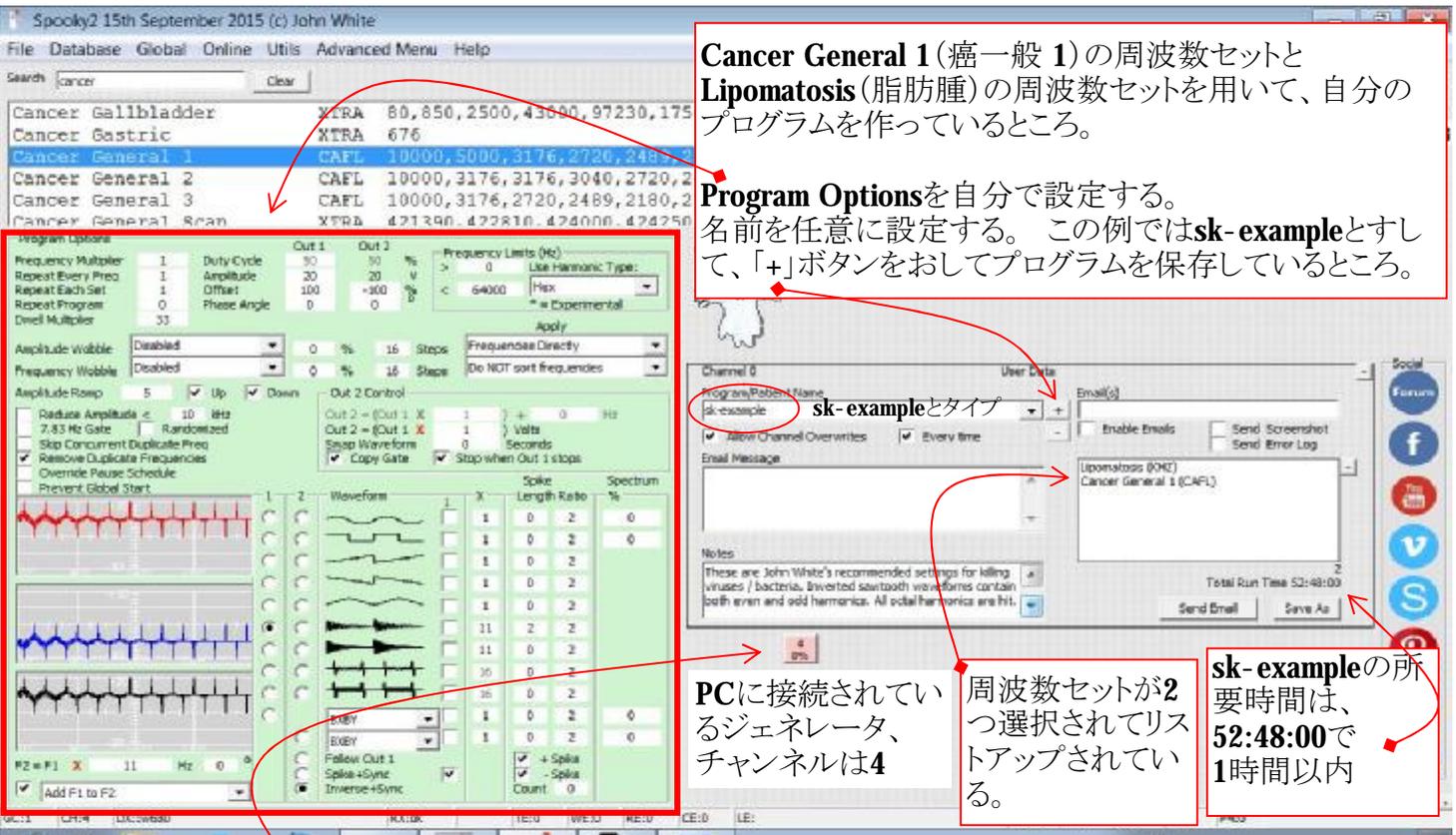


Cancer(癌)で検索し、Cancer Digestive System(消化系癌)を選んだところ。Cancerに関する周波数セットが401あり、選択したものは、127番目であることを示している。周波数セットの説明はここに表示される。

選んだ周波数セットがリストアップされている。

周波数プログラムは、JW-Killingが選ばれている

周波数セットは1個
プログラムの所要時間は、00:30:00



Cancer General 1 (癌一般 1)の周波数セットと Lipomatosis (脂肪腫)の周波数セットを用いて、自分のプログラムを作っているところ。

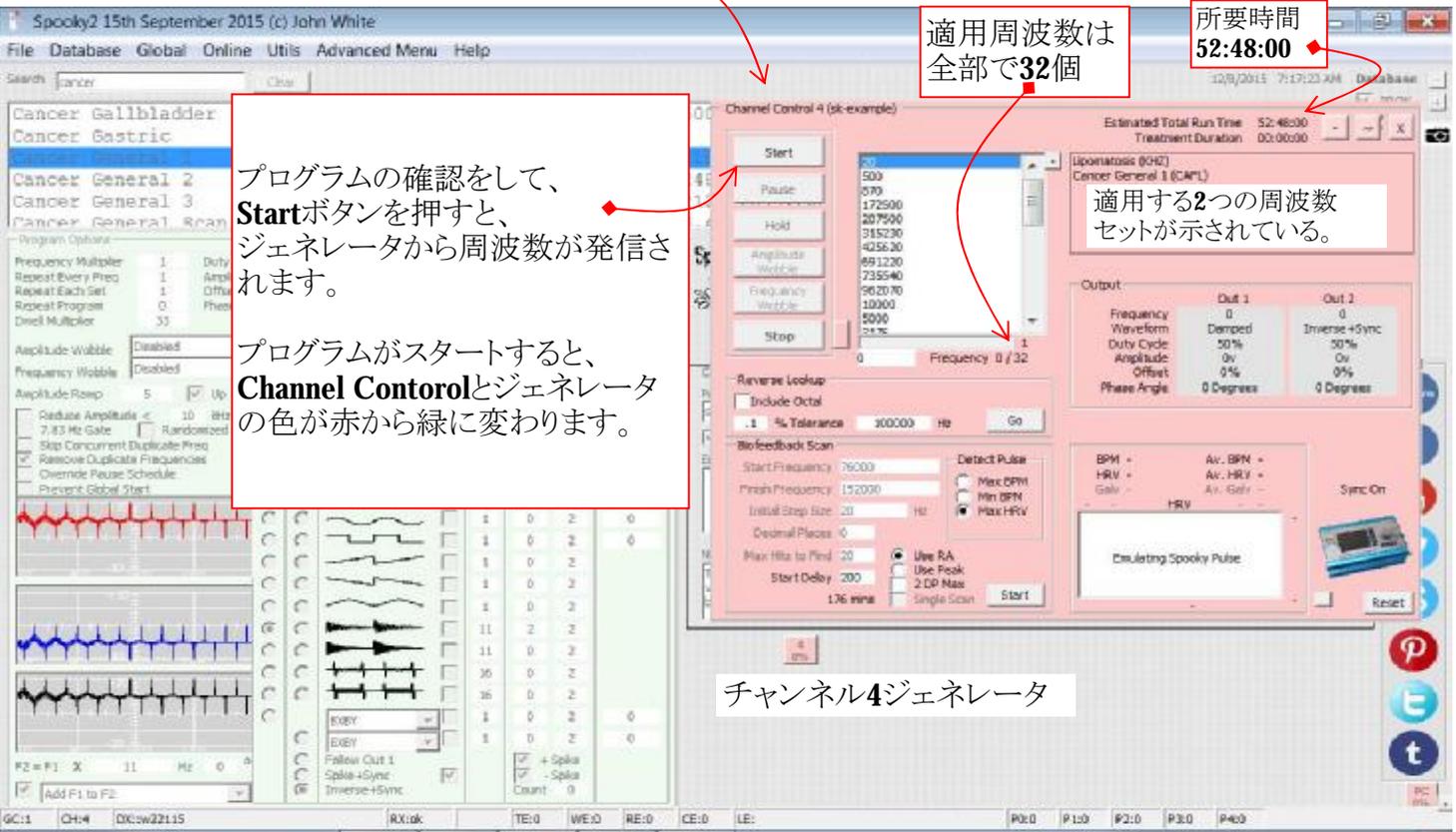
Program Optionsを自分で設定する。名前を任意に設定する。この例ではsk-exampleととして、「+」ボタンをおしてプログラムを保存しているところ。

PCに接続されているジェネレータ、チャンネルは4

sk-exampleの所要時間は、52:48:00で1時間以内

周波数セットが2つ選択されてリストアップされている。

上記のsk-exampleプログラムを実行するために、赤色のチャンネル4のジェネレータボタンをクリックして、Channel Control 4(sk-example)の実行確認画面を呼び出す。



プログラムの確認をして、Startボタンを押すと、ジェネレータから周波数が発信されます。

プログラムがスタートすると、Channel Controlとジェネレータの色が赤から緑に変わります。